

目次

口絵
序
目次
解説
凡例

産 業

第一章 米 麦 作

第一節 稲 米

1	未曾有の米価安 過去十ヶ年の平均相場……………	3
2	本県米は乾燥が不充分……………	4
3	約半数に激減した因伯米移出量……………	5
4	地場高に禍され因伯手持米はけず……………	6

第二節 酒 米

12	酒造用米と強力種……………	15
13	酒造地伏見から強力米の予約申込み……………	16
14	本県清酒入選率良好……………	16
15	最優良の醸造には八頭の酒造米……………	17
16	堂々他を圧す鳥取県下の清酒……………	18
17	中国六県品評会の成績……………	19

5	何が因伯米を格下げさせたか……………	7
6	簡易火力乾燥場と共同作業場を増設……………	10
7	水稻の声価向上は品質の統一が急務……………	11
8	水稻品種の分布調査……………	11
9	因伯米 県の奨励品種が六十九パーセント普及……………	12
10	鳥取県下の産米改良協会では急速・確実に格上を受けよ……………	14
11	県産米銘柄は品種か産地か 市場は品種を主張……………	14

第三節 小麦

18 小麦増産計画 他の領域を侵すな……………20

19 活模範たるべき小麦実地指導地二十五ヶ所
を選定……………21

20 小麦は乾燥が第一 俵装は農倉が世話す……………22

21 小麦をめぐって三巴の猛烈な争奪戦……………23

22 小麦増殖の反面に大麦と裸麦の作付反別減
少……………24

第四節 ビール麦

23 麦酒麦協議会……………25

24 利益が多いので麦酒麦の栽培激増……………25

25 ビール麦栽培 来年は三千石計画……………26

26 来春のビール麦 六千石を契約 第一回品
評会開催……………26

27 随感随想 ビール麦……………27

第二章 果樹栽培

第一節 二十世紀梨

28 日本一の名に陶醉して楽観を許さぬ二十世
紀……………28

29 新商戦術を編み出して二十世紀の販路開拓……………29

30 二十世紀梨輸出に県農会の準備……………30

31 二十世紀梨販売統制に危機来る……………31

32 日本一 二十世紀梨 生産・販売統制へ……………32

33 日本一 二十世紀梨 満州へ大量移出……………33

34 将来を危ぶまれる名産二十世紀梨 栽培指
導に技手一名では甚だ心細い……………33

第三章 養蚕・製紙業

第一節 養蚕

35 本県蚕糸連合会 製糸操短に参加……………34

36 操業休止か釜数制限か 工女千余名の大問
題……………35

37 昨年の収繭量百九十七万貫……………36

38 蚕糸業の合理化 組合製糸を興せ……………38

39 気高西部養蚕組合が団結して驚異的決議……………39

40 繭価安に気を腐らし桑園廃止の機運……………39

41 響蛆恐るべし 被害三万余円……………40

42 関西二府十県の業者が養蚕業更生策を協議……………41

43 糸価の奔騰で理想値に近づく……………42

44 桑園に速効肥料 蘇る弓浜部蚕業……………43

45 豊作と繭価高で歓声満つる弓浜部……………44

46 八頭繭は県下第一 産繭倍加に熱中する郡
養蚕組合の努力振……………44

47 春蚕掃立対策 極力生産費を低下せよ……………45

48 養蚕専業の弓浜部町村長 知事へ救済を陳
情……………47

49 桑園減反方針に従はぬ弓浜部民……………48

第二節 製紙

50 蚕霊供養会 百余寺の住職参列 空前の豪
華版!……………49

51 不振と云ふも県産和紙七十万円 副業とし
て馬鹿にならぬ……………50

52 本県製紙の現状 原料不足が欠点……………51

53 漸次減少する三椏・楮の栽培 本年度内に
増殖奨励……………52

54 農家の副業に桑の剥皮奨励……………53

55 因幡紙の謄写原紙を研究 試験に着手……………54

56 因幡和紙統制に賛否両論起る……………55

57 鳥取最初の工業組合 青谷町赤尾谷の製紙
業者……………55

58 日置谷の和紙 低資を融通して販売統制……………56

第四章 畜産業

第一節 因伯牛

59 因伯牛の沿革と現況……………56

60 畜産に関する鳥取県の答申……………60

61 畜牛購入資金 八頭畜産組合員に郡是製糸が貸付る……………61

62 因伯種県営登録牛の審査……………62

63 因伯牛 販路拡張の宣伝と調査……………63

64 県下水田の鞍下牛 農務課で根本的調査……………63

68 沿岸での機船底曳網漁業の基本調査……………75

69 沿岸漁業と遠洋漁業……………78

70 朝鮮近海の豊漁で各港より続々出漁……………80

71 県下の発動漁船僅かに二五四隻……………81

72 沿海州に出漁し大型漁船で窮境を打開……………82

73 満船帰港 沿海州出漁「住吉丸」 県試験船建造に拍車……………83

第五章 水産業

第一節 漁業

65 水産の沿革と現状 製造・養殖に指導が急務……………64

66 「水産調査資料」 鳥取県……………66

67 因但漁業紛争の大阪控訴院判決……………72

第六章 運輸・電信

第一節 鉄道

78 陰陽連絡の一革命 愈々因美線全通……………90

79 津山商人の猛進出 偷安を許さぬ鳥取商人……………92

第七章 その他

第一節 農漁村の貧困

91 弁当の代りに水ばかり飲む児童 漁村の欠食児童……………102

92 漁村の貧窮度 県商工水産課生計状態調査……………103

93 来年の食米がない 寒さにふるふ早害地……………104

94 或農家の赤字記録 当局は徹底的救済を断行する勇なきか……………104

第二節 岩美鉈山鉈毒

95 岩美鉈山鉈毒の惨禍 荒廃する三百町歩……………109

96 岩美鉈山の鉈毒で磯漁業が衰退 鉈山側に補償を迫る……………112

97 岩美鉈山当局は鉈害を否認す 大阪鉈山監督局へ農民側請願……………113

98 七千五百円の見舞金で解決 岩美鉈山鉈毒問題……………114

第二節 自動車

83 本県下の自動車道路 其の経済的基本調査……………96

84 道路の悪いには全く驚いた 財政の許す限り一日も早く改修したい……………97

85 文化自動車も参加して自動車合同完成す……………97

86 鳥取市の交通デー 鳥暑で定めて徹底的交通取締……………98

87 「日の丸」自動車 伯州自動車の買収成立……………99

88 日の丸自動車の県下交通網独占化……………99

89 自動車協会愈よ結成……………100

90 躍進の日ノ丸自動車 直通バス 智頭町から上郡と佐用へ……………102

第三節 産業組合

99	三月六日の産業組合記念日	115	109	日野郡多里村出立山定約証	185
100	産業組合振興 更に長期計画	116	110	日野郡鉄鉱業産出量等に関する取調	189
101	産業組合の活躍を待望	117	111	不融通につき鉄山改革意見	194
102	全国産組大会近づく 臨時列車・割引券・案内所	122	112	鉄鋼御買い上げにつき請願	196
103	産業組合の発展に一大飛躍を希望 鳥取県知事談	123	113	鉄鋼御買い上げにつき上申	198
104	四班に別れて県下の産組視察 視察組合の状況	125	114	鉄鋼買い上げにつき聞き届け	199
105	至高の理想目指して 稲葉産業組合	135	115	パリ万国博覧会出品願	199
106	統制の強化による産業組合時代来る	136	116	第五回内国勸業博覧会の出品解説	208
			117	近藤喜八郎製鉄場業務一斑	209
			118	製鉄事業及びクローム煉瓦製造事業の効績	213
			119	福岡製鉄工場の売買契約証	215

第八章 日野郡のたたら製鉄

107	鉦山志料	138
108	鉦内規則・鍛冶屋方言渡之事・山方申渡之事	175

教 育

第一章 近代学校の形成と模索

(明治三十九年)

第一節 小学校の経営方針・教育方法の模索

1	家庭教育主義・子弟組織	221
2	国語教授式	225
3	日清戦争に関する小学校教員への訓示	227
4	鳥取高等小学校内規	234
5	御真影殿造営 校史一節	236
6	成績考查規定(鳥取高等小学校)	238
7	時局に関する教育報告(日露戦時の軍事援助教育)	239
8	私立鳥取県教育会戦後教育研究部報告書(初等教育、抄)	242

第二節 中等教育の模索

第三節 教員養成

9	学校紛擾に関する訓令	246
10	鳥取県立第一中学校校友会会則・文芸部規則・運動部規則	247
11	寄宿舎細則	250
12	鳥取県立高等女学校の各種規則	254
13	農学校農友会規則	258
14	東伯に於ける中学校問題	259
15	鳥取県師範学校規則	264
16	鳥取県師範学校寄宿舎細則	273
17	生徒養成の状況(報徳教育の影響)	276
18	小学校教員講習会規則・附則	278
19	小学校教員予備伝習所規則	280
20	小学校教員講習科規程	282
21	鳥取県師範学校小学校教員講習科規則	284
22	鳥取県師範学校附属小学校現時の状態	286

第四節 教員集団・教師論

23 初等師範学科卒業証書ほか免許状の移行……………289

24 小学簡易科教員小学校授業生免許規則……………290

25 小学校教員仮免許状の授与……………291

26 小学校教員学力検定試験細則……………292

27 小学校教員検定等に関する細則……………293

28 小学校教員免許の有効期限延長……………298

29 法美郡町村教育会規則……………299

30 私立教育会開設の届出……………301

31 鳥取県教育会規則……………302

32 鳥取市小学校長会規定……………304

33 教員の政論に関する訓令……………305

34 非実効的の教育……………305

35 明治期の庄内尋常高等小学校の補習教育……………309

36 研志塾の学風……………311

第二章 義務教育六年制に基づく教育の発展

(明治四十年～大正十五年)

第一節 小学校における経営方針と大正新教育の

展開

37 成徳尋常高等小学校 校規……………314

38 校訓制定趣旨・校訓制定に関する説明……………322

39 休憩時間監護中の注意事項……………323

40 児童学業考査規定・学業成績考査方法……………325

41 角盤校友会……………328

42 学校体操に就きて……………332

43 児童の創作的発見的気分を養ふため教育上注意すべき事項……………339

44 本校教育方針の改善(就将校)……………342

45 綴方教授細目の新使命……………344

46 自由教育思潮に鑑み教授訓練上留意すべき事項如何……………350

47 大正十一年卒業修学旅行(勝部小学校)……………353

第五節 青年教育・社会教育

48 児童劇に対し父兄諸氏に答ふ(成徳小学校)……………354

49 子供の読み物に関する考察……………359

第二節 中等教育の展開

50 公立学校処務規程……………365

51 今春の修学旅行……………369

52 明治四十三年度 学芸品展覧会……………371

53 大正六年度生徒募集(私立育英中学校)……………381

54 中国六県オリムピック大会遠征記……………383

55 混戦・楽しい割烹・卒業前の感想……………386

56 本校教育指針……………388

57 寄宿舎規程並に状況……………389

58 進修校友会規則……………394

第四節 教員の教育研究の発展

62 鳥取県立農学校農業教員養成科規程……………413

63 本会設立の講習所の状況……………418

64 職員修養に関する事項(成徳校)……………421

65 久松尋常高等小学校規程(職員研究に関する規程)……………422

66 全国教育大会……………424

67 開会の辞(第八回初等教育研究会女子部会)……………427

68 本県青年団の現況と補習教育……………431

69 船上山建碑除幕式辞……………435

70 地方教育と地方図書館……………436

第三節 多様な教員養成

59 訓育の状況……………398

60 予の師範学校附属観……………404

61 本校に於ける教授研究会……………409

第三章 昭和戦前・戦時期における教育

第一節 小学校の経営方針と教育方法

71 教育的自覚・我教教育主張……………445

72 昭和十一年度努力すべき要点 就将尋常小
学校……………447

第二節 中等教育

73 昭和十三年度努力すべき要点・本校の事変
対応施設……………448

74 鳥取県教育是制定の精神・鳥取県教育是実
践要目……………452

75 三・四年文化科「三郎の旅行」……………457

76 映画教育論……………460

77 本校図書館教育の実際……………464

78 健康教育の方針……………467

79 成徳小学校の職業指導教育……………469

80 記念郷土室設立経過（久松校）……………473

81 国民科の精神並に修身の實踐……………477

82 理科教育の方針……………480

第三節 教員養成

90 塾風教育進修塾について……………516

89 鳥取高等女学校学級復活に関する参考資料……………512

88 鳥取市立因幡高等女学校設置に関する資料……………509

87 中等学校入学考査実施要項……………507

86 角盤興亜教育 前言……………504

85 角盤健児団……………493

84 小学校高等科の家事科教育について（昭和
六年）……………490

83 国史的教材……………486

91 教生となつての所感……………519

92 鳥取県師範学校学則……………520

93 郷土室規定・郷土研究会規定……………527

94 学友会規程……………529

95 教育実習規程……………531

第四節 教員集団・教師論

96 教育者の地位に関する第十三回山陰連合教
育大会の宣言……………532

97 鳥取県教育会館落成式会長式辞……………533

98 啓成小学校の教師論……………535

文 化

第一章 近代地域文壇の黎明

1 神山郡廉・門脇重綾意見書……………561

2 諸陵寮被為復度義に付建言……………562

3 上記絶版建議……………563

4 『但馬聖人』門弟評伝……………564

5 松田道之 議事所を設置……………565

6 神代復古請願之旨趣書外二種の出版物頒布
を禁止す……………565

第五節 青年教育・社会教育

99 社会教育振興に関する件・鳥取県社会教育
委員規程……………540

100 青年会館に関する概説……………542

101 船上山道場建設願……………546

第六節 幼児教育・保育

102 農繁期託児所設置の急務……………548

103 農繁期託児所保母講習会 鳥取図書館で……………551

104 戦時下における季節保育所の普及・徹底……………552

105 農繁期託児所施設標準……………556

106 保母の心得に関する参考……………557

7 | 1 『黄金雑誌』 1 刊行の趣旨等……………566

2 | 『黄金雑誌』 2 発禁事件への反駁……………569

3 | 『黄金雑誌』 3 中村平蔵原稿……………571

4 | 『黄金雑誌』 4 中村平蔵原稿……………574

5 | 『黄金雑誌』 5 中村平蔵原稿……………576

6 | 『黄金雑誌』 6 中村平蔵原稿……………579

7 | 『黄金雑誌』 7 中村平蔵原稿……………579

52	地方文壇消息 大正十三年十一月二十八日	671
51	大正十二年度の鳥取文壇私見	662
	枚を撒布	661
50	暁人社の文芸運動 本日境町にてピラ一万	659
49	郷土文芸批判 詩人 江見浩一郎	659
48	『山陰』創刊号より	650
47	『冷人』発刊の言葉・編集後記	648
46	早大帰省学生の開く文芸活動	647
45	文芸座談会	646
44	郷土芸術の秋	645
43	鳥取地方の文壇・絵画・音楽方面	643
42	関西学院文学部主催の講演と音楽会	642
41	文芸座談会 本日陳列所で	641
	の閃きと煙草の煙	640
40	本社文芸座談会 長方形の青い室に新思想	639
39	鳥取山宣事件	639
38	水脈社主催の文芸講演会	638
37	有島武郎の自死によせて	636
	地方文壇消息 大正十三年十二月十五日	671
	地方文壇消息 大正十三年十二月二十二日	673
	地方文壇消息 大正十四年一月二十九日	673
	地方文壇消息 大正十四年一月三十一日	674
	地方文壇消息 大正十五年十月二十八日	675
	地方文壇消息 大正十五年十一月八日	676
	地方に初めて組織される権威あるキネマリ	676
	グ	676
	久松キネマ独占の鳥取市に帝キネの末広座	678
	が生れる	678
	末広座のキネマリグ	679
	映画人消息	680
	鳥取キネマリグ第一回集会	680
	鳥取キネマ旬報	680
	新春雑筆―キネマ愛好者へ捧ぐ―(田中迷	681
	虹)	681
	山陰各地発行の文芸雑誌 大合同計画	681
	郷土文壇再興	682

8	『橋浦時雄日記』第十六号	581
9	国民新聞社長梅田又次郎 従軍為致度奉願	582
10	禽城文学の変調	584
11	卯の花会懐古 明治三十年代に於ける本市	585
	の新生文芸運動	585
12	白日报社より 千茅	587
13	1 鳥取研究(十) 鳥取の文芸(一)	589
	2 鳥取研究(十) 鳥取の文芸(二)	590
14	『水脈』創刊号	590
15	かの一団	593
	第二章 「文学青年」の時代	
16	『秋田雨雀日記』 大正七年十月十二日条	595
17	背水の陣を布いた芸術家 「明ゆく路」の	595
	作者野村氏	595
18	野村氏の歓迎会	597
19	明けゆく路に就て 涌島義博	597
	橋浦時雄宛 有島武郎書簡	599
	鳴潮会近代劇 脚本朗読会	600
	舞台に立つ前 若く強く生きんとする新し	600
	き人達の群	600
	生田長江『資本論』序	601
	杉山茂丸『百魔』の刊行について	605
	後藤是山宛 寛・晶子書簡	606
	尾崎放哉の追想(福光美規)	606
	堺利彦「京阪講演旅行の記」	611
	『壞人』創刊号「刊行の言葉」	627
	壞人社同人主催文芸講演会	628
	純文芸雑誌「水脈」が鳥取を中心に生れる	629
	郷土文芸の振作	630
	第二次『水脈』一号・巻頭語	632
	「水脈」の立場 創刊一週年に	633
	郷土文芸誌の復活	634
	文壇の三巨星来る	636

第三章 地域文芸の諸相

68	鳥取文壇史の一頁	683
69	乃木大将と塚田大佐	684
70	在京本県出身者が無産県人会組織	692
71	創立趣旨・名簿（東京無産県人会）	693
72	特別要視察人入営に関する件	696
73	文芸講座の為に雨雀・春月氏等来陰	711
74	文芸講座演題決定 生田氏以外の三氏来県	711
75	文芸思潮講座	712
76	文芸同人雑誌「砂の社」	713
77	郷土文壇を飾る同人雑誌	714
78	オール・トットリ文芸座談会	715
79	生れ出でたる鳥取文芸協会	715
80	「筆の慰問使」福田氏の送別会	716
81	全鳥取……文芸座談会	717
82	文芸講演会で三名検束	717
83	鳥取県が産みたる現代文芸作家	718
84	山陰文芸連盟 根雨で発会式	720
85	日野文芸のルネッサンス	720
86	一九三一年の鳥取文壇回顧	722
87	一九三二年鳥取文壇決算報告	725
88	郷土文芸を語る会	727
89	文芸首都 鳥取支部創立	732
90	杉森留三詩集『白魂』序文（尾崎翠・生田花世・山下清三）	732
91	因伯芸術家懇話会 会員名簿	738
92	引田春海と『燕京文学』1	746
1	引田春海と『燕京文学』2	747
2	引田春海と『燕京文学』3	748
3	引田春海と『燕京文学』4	748
4	引田春海と『燕京文学』5	749
5	引田春海と『燕京文学』6	751
6	引田春海と『燕京文学』7	752
7	引田春海と『燕京文学』8	753

関係者名簿……………757